

## 第 49 回インナーゼミナール大会

### 研究計画書

<b>ゼミ名</b>	稲田ゼミ II	<b>チーム名</b>	稲田ゼミ I
<b>タイトル</b>	観光公害と民泊活用		
<b>テーマ群</b>	a)理論・情報、e)産業・企業、g)その他		
<b>メンバー</b>			
<b>研究計画内容</b>	<p>研究の背景と目標</p> <p>私たち稲田ゼミ I では、関西経済を中心にこれまで研究を行ってきました。主に訪日外国人観光客の動向に焦点を当て、持続可能なインバウンドとはどのようなものなのかを研究しています。</p> <p>近年、日本では訪日外国人観光客が年々増加しており、「オーバーキャパシティ」という問題が発生しています。「オーバーキャパシティ」とは、訪日外国人が特定の地域に遍在することによって、交通状況の悪化やホテル代の高騰により、市民の生活に支障が出るという問題です。この状況を緩和する方法として、民泊を積極的に活用することで、この問題を解決しようというのが我々の研究目標です。</p> <p>研究の内容と期待される効果</p> <p>民泊とは主に住宅やマンションの空室を利用し観光客や旅行者に宿泊サービスを提供するものです。最近話題の「Airbnb」はその一例です。民泊のメリットは、日本の生活や文化、いわゆる「おもてなし」を体験できることです。私たちは有名観光地やそうではない地域の民泊をうまく利用し、オーバーキャパシティを改善できないか、2018年に施行された民泊新法で民泊はどう改善されたのかなど、民泊を中心とした視点から分析していきたいと考えています。また、2020年には東京オリンピックが開催され、訪日外国人観光客が増加することで今以上にオーバーキャパシティの発生が見込まれます。この研究でオーバーキャパシティの解決の糸口を見つけられるように目指していきます。</p> <p>今回のインナーゼミナール大会では、訪日外国人観光客の増加によるオーバーキャパシティの観光公害と民泊の活用について研究発表していきたいと考えています。</p>		